

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立諸富南小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の資質向上を図り、日々の授業改善や校内研修を軸にUDを意識した人的環境や学習環境を整え、子どもたちが安心して学べるように教職員の資質向上を図る。</li> <li>「ふるさとを愛する」ことにつながる学習活動の充実を図る。コミュニティスクールを機能させ、さらに学習の目的を保護者や地域と共有し、「ふるさとを愛する気持ち」を醸成していく。</li> <li>児童理解のための研修やケース会議を行い、適切な児童支援と個性の伸長を図る。教育相談を充実させることでいじめの早期発見・早期解決につなげたり、児童一人一人に目標を持たせて児童のよさや可能性を伸ばす。</li> </ul>
2 学校教育目標	ふるさとを愛し、「夢」「ふれあい」「感動」のなかで、生き生きと輝く子どもの育成
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どものwell-beingの実現に向け、自己存在感、共感的な人間関係、自己決定、安心・安全を視点においた授業改善を目指す。</li> <li>教育相談の充実や開発的生徒指導に取り組み、児童の個性を認め、よさや可能性を伸ばす。</li> <li>読書活動や一人一台端末の活用を行い、児童に課題設定力、公的対話力、協働解決力を向上させる。</li> <li>家庭や地域との連携を生かした教育活動の企画力、コミュニケーション力、情報発信力を高める。</li> </ul>

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1) 共通評価項目				最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
								●学力の向上 【やる気の子育成部】
●心の教育 【やさしい子育成部】	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめを受けたり、いじめたりすることなく、楽しい学校生活を送ることができた」と実感できている児童が89.9%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6月や12月のフリー参観や授業参観時に全学級道徳の公開する。</li> <li>「学級活動、委員会活動、学校行事において児童に役割をもたせ、承認する場を取り入れる。</li> <li>「ありがたうの木」活動で、カードに書く内容の具体例を提示したり、放送で読むカードの内容を精選したりすることで、より自己肯定感を高める活動内容にしていける。</li> <li>児童の自己肯定感を高めるきっかけになるよう、「いじめ・いのち」のアンケート欄に「自分のいいところを書く」欄を設ける。</li> <li>差別を許さない学校風土を醸成するため、毎学期始業式のいじめゼロ宣言の実施、人権標語の掲示などを行う。</li> <li>毎月、児童アンケート調査を行い、いじめの早期発見に努める。調査結果については、生徒指導連絡会や連絡会で全職員で共通理解を図り、対応を協議する。</li> <li>校内研修等により、いじめの定義を確認し、対応方法について学ぶ。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳の公開授業は、100%達成した。</li> <li>「ありがたうの木」は全校児童が一人一枚以上書くことができ、思いやりの心を共有することができた。</li> <li>「学校生活としての悩みについて、「教育相談週間」を設定し、教師と児童一人一人と向き合う時間をもつことができ、学校が楽しいと答えた児童が91%だった。</li> <li>「いじめを受けたりせず、楽しく過ごすことができている」児童は全体の91%だった。引き続き、いじめ・いのちのアンケートや日頃の様子を見ながらいじめやトラブルの未然防止、早期対応を心掛けていきたい。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>公開授業は保護者の再認識、家庭での取組につながればと思う。</li> <li>「学校が楽しいと答えた児童が91%の残り9%の児童も学校が楽しく感じるように、先生、保護者で頑張る。</li> </ul>	
●健康・体づくり 【元気な子育成部】	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動習慣の改善や定着化</li> <li>望ましい生活習慣の形成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体を動かす時間が1週間で100分以上の児童80%以上</li> <li>「やる気の子育成部」「やさしい子育成部」の計画に基づき、共通認識のもとに全校で統一した指導を行い、「生活指導四本柱」の各柱の定着率85%以上</li> <li>「早寝、早起き、朝ご飯」の定着を図り、児童や家庭にもその協力を呼びかけ、達成率80%以上</li> <li>家庭学習時間やネット・ゲーム機使用の時間について、把握できていると回答する保護者が90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「先生はあなたのよいところを認めてくれていて」と回答した児童生徒80%以上</li> <li>●小学校卒業後の自らの夢や目標をもち、その実現に向けて頑張ろうと思う気持ちを持つことができる児童が80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>熱中症等、懸念することがなければ積極的に外遊びを奨励し、一日の運動時間を最低20分間は確保する(始業前、業間休み、昼休み、放課後等)。</li> <li>体力を高めるための楽しい運動の紹介をしたり体育の授業で実践したりする。</li> <li>体を動かすイベント等を委員会活動の一環で行い、多くの児童が体を動かす機会を設ける。</li> <li>「生活指導四本柱」について毎朝の全校放送を行い、児童に習慣化を促す。</li> <li>重点目標達成委員会において取組状況を確認し、指導の徹底を図る。具体的な取組は各育成部で検討提案する。</li> <li>家庭学習が「必ず週間に定期的に行い、家庭からの協力を得ながら規則正しい生活を意識させる。長期休業には「生活チェック表」で毎日の計画をたてさせ、それに沿って生活させるようにする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日外で遊んでいる児童が43%、ときどき外で遊んでいる児童が33%と前期より外で遊ぶ児童が増えた。引き続き、学校全体で声掛けを行っていきたい。</li> <li>体育委員会を中心に、外遊びを促すイベントを実施することができた。</li> <li>「生活指導四本柱」の各柱の定着率85.5%(平均値)、前期より0.5%増えている。今後も「やる気の子育成部」「やさしい子育成部」の計画に基づき、共通認識のもとに全校で統一した指導を行う。特に無言掃除は達成率78%だったので、指導により力点を置きたい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童みんなのよいところを見つけてくれるようお願いする。(79%は低い)また、悪いところも児童・保護者に伝えてほしい。</li> <li>芸術鑑賞や体験活動を通して夢や目標をもっとの楽しさや大切さを教えるとともに、今の勉強やクラブ活動が大事で達成につながることを教える。</li> <li>外であまり遊ばない児童もいるようで、1日外で遊んで全児童が外で遊ぶ時間帯を設定する。</li> <li>1年を通して暑い日が増えた。できるだけ外で遊んでほしいが、体調には注意するようお願いする。</li> <li>学校任せではなく、家庭生活が基本であることを講演会等を通して保護者に十分認識してもらおう。</li> <li>生活習慣は、学校だけの問題ではなく家庭でも指導してもらえるようPTAからも呼びかけていく。</li> <li>放課後、保護者の車の迎えが多いようだが、塾等は帰宅してから行かせるように指導する。</li> </ul>
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減</li> <li>業務改善意識の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。</li> <li>年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>働き方改革に関する研修を学期に1回行い、意識改革を図る。</li> <li>「定時退勤日」を水曜と金曜の選択し推進する。</li> <li>1ヶ月の時間外在勤時間の総計の記録を各自がグラフ化する。</li> <li>会議等の精選を行い、職員の放課後の業務時間を確保する。</li> <li>長期休業中や放課後の業務時間を集中的に確保し、成績評価を計画的に行う。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間外勤務時間の1日あたりや週あたり、また、月あたりをよく意識していると回答した職員が56%から78%に増えるなど、職員の意識改革が図られている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間外勤務に関する意識改革が78%と向上はしているが、100%を目指す。</li> </ul>	
●特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援が必要な児童に対する理解と支援の在り方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校が楽しい」と感じる児童90%以上</li> <li>通常の学習や生活指導において、合理的配慮を行っていると回答できる職員が95%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任や級外、生活支援員、特別支援教育支援員同士の情報共有の場を確保し、児童理解に努める。</li> <li>児童の困りに寄り添い、早期発見、早期対応を行う。</li> <li>「職員連絡会」等で見守りたい児童の状況について報告し、全職員の共通理解を図る。</li> <li>月1回の「生徒指導協議会」では、児童への適切なサポートについて協議する。</li> <li>スクールカウンセラー、巡回相談訪問、ケース会議を通して、支援方法を探るとともにミニ研修会を実施し特別支援に対する啓発活動を行う。</li> <li>個別の支援計画をもとに、継続的な支援を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標の90%には届かなかったが、学校が楽しいと答えた児童は88%で、一回目のアンケートよりも楽しいと感じる児童は増加した。もう少し、児童自身が考え、実行して楽しむようなイベントが必要だと感じた。</li> <li>合理的配慮を行うことができる職員は全体の95%と一回目のアンケートより減少したが、「よくあてはまる」と回答した職員は増加していたので、自身の指導を見つめ直し、改善しようとする職員が増えてきていると感じた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者と連携を密にして理解を深めて教育にあたってほしい。</li> <li>児童が考え楽しむようなイベントで、PTAの協力が必要なときは、いつでも相談してほしい。</li> </ul>	
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目								
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
				達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○教職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員の専門性と意思の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全職員がユニバーサルデザインを取り入れた学習環境づくりを行い、一人1回以上の授業公開を行う。</li> <li>タブレットを用いた授業について、一人1事例の紹介を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確かな学力の定着と向上にむけて「できるようになる授業の実践」振り返りの場を設定と充実」を校内研修等を通して実践化を図る。</li> <li>校内研修で、タブレットを用いた授業実践を紹介を年間計画に組み込み、個々の実践につなげる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>全職員がユニバーサルデザインを取り入れた授業づくりを意識することができた。また、一人一回以上の授業公開を行い、授業研究会を通して授業力向上に努めた。</li> <li>全職員対象のタブレット活用における実践研修を数回行った。今後、一人一事例の紹介の場を全職員で共有していきたい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>働き方改革のしほりもあり大変難しいかと思うが、職員の皆さんのさらなるスキル向上を願う。</li> </ul>	
○家庭や地域との連携を生かした教育活動の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティスクールとして、教職員やPTAの機運を醸成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通して、職員とPTAの研修会を2回以上行う。</li> <li>各学年の年間指導計画をゲストティーチャーや地域支援の観点から見直す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教頭が窓口になり、諸富校区3校に1名配置された地域教育コーディネーターと連携し、コミュニティスクールについて研修会を行う。</li> <li>各学年毎に、ゲストティーチャーやPTA・地域ボランティアの協力依頼計画表を作成する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業参観や150周年行事等をPTAと協働して行うことができた。</li> <li>「平和学習」や「昔遊び・ニュースポーツ」しめ縄作り等の多くの学習にゲストティーチャーを講師として招くことができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>150周年記念行事やしめ縄作りはよい計画だった。</li> <li>ゲストティーチャーや地域ボランティアの方の評価は良好である。</li> <li>朝の見守り活動では、25人ほどの児童が通り、みんな元気にしやんけんと呼びかけたりして、元気ももっている。</li> </ul>	
●...県共通 ○...学校独自 ◎...志と誇りを高める教育								
5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員・保護者・地域の連携した取組で、中間評価より最終評価で、4つ(関係者評価で3つ)の取組内容の評価が向上した。来年度は、さらなる子どものwell-beingの実現に向け、引き続き自己存在感、共感的な人間関係、自己決定、安心・安全を視点においた授業改善を目指す。日々の授業改善や校内研修を軸にUDを意識した人的環境や学習環境を整え、子どもたちが安心して学べるように教職員の資質向上を図る。</li> <li>児童支援において、校内の支援体制の構築やSSW・SC等の連携を図った。児童理解のためのケース会議や研修を行ったことで、適切な児童支援と個性の伸長を図ることができた。教育相談を充実させることで、いじめの早期発見、早期対応をすることができた。</li> <li>地域連携を生かした活動は、地域学校協働活動推進員の力を借りながら充実させることができた。次年度も学校運営協議会やボランティア推進協議会を機能させ、さらに学習の目的を保護者や地域と共有し、「ふるさとを愛する気持ち」を醸成していく。</li> </ul>							